

テクノポリスで開く21世紀の熊本——熊本 のあす。

〈花開く先端産業群〉

テクノポリス建設は、1990年代、更には21世紀を展望して進められる事業です。この中で、先端的な企業の立地が一層進み、また、研究開発のため独自の研究所の設立などに取り組みながら、地元企業の技術力も飛躍的に上昇し、これらが相互に影響し合っ、先に熊本テクノポリスの骨組みとなる産業として掲げたA・B・C・D産業の拠点がつくられます。

ここにいくつかの数字があります。昭和55年で、本県の工業出荷額及び情報サービス業売上高に対しA・B・C・D産業の割合は25.5%ですが、これが10年後の昭和65年になると約37%を占めるようになると推定されます。このことから、A・B・C・D産業がますます重要度の高い中核となる産業として位置づけられることをみて取ることができます。

また、先端的な技術や技術についての情報を橋渡しとしながら、異った産業間の結びつきによる新しい産業が起ってくることも確かです。特に熊本ではバイオテクノロジーを農林水産業の分野に応用し新たな成果が上げられていくことに大きな期待が寄せられます。

県では、先端的な企業の誘導を進めることはもとより、地元からの高い技術力を備えた企業が成長していくよう、技術者、研究者の交流の場をつくり、あるいは研究機関を充実していきます。民間での力も生かされながら、このような取り組みが成果をあげ、熊本の広大な自然の中に、テクノポリスの目指す種々な分野の先端産業が根付いていくのを確信することができます。

